

交通事故にはあわないぞ!
—親と子の交通安全教室— 3/5~16



高島交通安全協会では、4月から小学生になる児童を対象に「親と子の交通安全教室」を開きました。児童たちは、交通事故に遭わないために、自分が交通ルールをしっかり守らなければならないことを、人形劇や腹話術をとおして、楽しく学びました。(交通景観政策課)

琵琶湖一周スポレク健康ウォーキング 3/9

今津~高島の湖岸沿いを歩く「琵琶湖一周スポレク健康ウォーキング」が開催され、よえもん君もかけつけました!(市民スポーツ課)



100年後も美しいびわ湖でありますように 3/13

昨年11月に大津で開かれた「全国豊かな海づくり大会」への参加を記念して、マキノ東小学校の5・6年生が、マキノ東小学校グラウンドに「ソメイヨシノ」7本を記念植樹しました。(環境政策課)



一人から始めること 3/15

難民を助ける会の創設者である相馬雪香さんが高島市を訪問されました。地雷廃絶に取り組む市内の子どもたちとの交流の中で、「一人で出来そうにないことだから、一人が始めなければならない」と、行動を始めることの大切さについてお話いただきました。(BLICCサポーター協会)



(水) ウィンター冷たい 南極からの贈り物 3/15

青柳小学校PTAが環境について考えようと、初めて企画した「エコ・スクールプロジェクト」。砕氷船「しらせ」が持ち帰った南極の氷で地球温暖化について学びました。(青柳小学校)



激走 —第1回高島市小学生陸上競技会— 3/23

健康の森梅ノ子運動公園で開かれた『第1回高島市小学生陸上記録会』。参加した約30人の小学生が、50m・ソフトボール投・立三段跳・1000mの4種目に元気いっぱい挑戦してくれました。(高島JAC)



▼語り・日爪・岡区民有志
 画・川原林徳一氏・早藤典子氏・弘部容子氏
 高島市所蔵 サイズ・240cm×160cm



環境、防災知識などを基に、魅力ある地域にしたいと考え、生活絵図に未来構想図としての意味を込めて、いろいろな場面で活用していきたいと考えておられます。

(注) 地域に暮らす人々が、日々の生活体験の積み重ねを通じて育んでこられたふるさとの思い出やイメージを集約して、絵画によって表現したものを。当時の風俗や街並みを正確に復元することを目的としたものではなく、人の印象に合わせて変形・誇張されている部分があります。

今回紹介するのは新旭町日爪・岡の「生活絵図(注)」は市の「新旭まちづくり協働モデル事業」により制作されました。日爪・岡地域は山と里、湖が連なった地域です。生活絵図は、こうした豊かな自然環境を活かした人々の暮らしや歴史、伝統、そして「歴史の生き証人」ともいえる地名を次の世代に伝えていきたいとの思いで地元の住民グループ「聞いとかんせ」の方々が中心となって取り組まれました。

日爪・岡は、饗庭野(絵図上部)から琵琶湖(下部)に向けて流れる豊かな川の水を利用して農業や生活が営まれました。中央には、青年団の田打ち(田植え前の耕起)、牛馬耕運、稲刈りなど、営農の様子が描かれています。左面の中央には、蚊帳をはって田の水入れ(水番)をする様子が見られ、雨の少ない年などに水の確保に苦労した様子がうかがわれます。日爪と岡で水争いが起こったこともあったそうです。絵図の下端を横切るのはかつての西近江路、今の県道高島今津線で、沿線には鍛冶屋や桶屋、薬屋など18のお店が連なり、この地域内で生活が成り立っていたそうです。中央上部には、馬30頭ほどが出た若宮八幡社の勇壮な祭りの様子も見られます。

絵図の制作を通して、地域では、豊かな自然の中で子どもたちが遊べること、コミュニティの核であった「お祭り」の復活、活断層の存在や防火用水の確保など多くの話し合いや交流が生まれました。こうした交流を通して、日爪・岡では、生活絵図に描かれている先人の知恵や地域性、自然

シリーズ
 さと
環の郷
 その二十八
 えびょうぶ
 絵屏風のふるさと巡り ⑫
 ふるさと日爪・岡
 絵屏風